

レインボーギャザリング

10月の新月～11月の新月
岡山県総社市・月の村

日本初の試み (レインボーギャザリングワールド)

月の村 (岡山) とろん

時代のうねり力は決定的で、1969年春、ボクが18歳の時に日本脱出し地球放浪を始めたのも、ボク本人は必死で、単に全細胞的疼きに打ち負かされて（わけもわからず）旅立つただけで、実は時代はヒッピー全盛時で（なにもしない）田舎の少年のボクは、旅の中、逢う人すべてが観たこともないヒッピーライフだったことに驚くばかりだった！

再び、時代のうねり力は決定的で、2025年秋、ボクが74の時、日本初の（レインボーギャザリングワールド）がボクらの（月の村）で始まった！！これまでの七年間、（わけもわからず）必死に全細胞的疼きに打ち負かされて33000坪の山谷を切り開き続け、今年の冬、全ての矢竹、棘、藪などを切り開き切った！とほっとしてたら、いきなりレインボーライフがやってきて何度もキャンプし、日本中の全ての候補地の中から（月の村）開催が決定された。

この始まりは（いのちの祭り2024）で、レインボーたちが日本初の開催に向けて話し合っているときにボクが（たまたま必然）通り過ぎ、「とろんさん」と聲をかけられ、候補地の一つになってしまった。だから、この（いのちの祭り2024）がなかったら、この前代未聞のギャザリング@月の村は興ってなかつたのだから。

みたび、時代のうねり力は決定的で、今、時代にふるい落とされゆくものが（形骸化）され過去の（異物）となり、時代の最先端をゆく新芽のような、古くってアラシイ（感染力絶大）な（いのち命イノチ）したものが、今、時代の渦を巻き起こそうとしている。

ジャンルを超えて、本人は必死で、単に全細胞的疼きに打ち負かされ（わけもわからず）、発酵菌のように日常的にふくらみ展

開していることが、実は時代のアラシイ風を巻き起こしていくのかもしれない。

2025年9月30日半月から（オブザベーションキャンプ）が始まり、月の村33000坪世界の隅から隅までが探索され、10月7日満月から（シードキャンプ）が始まり（想い）を（形）にしてゆく設営が始まった。そして10月21日新月から本番に突入し、11月5日満月にピークに達し、この時点で600人のレインボーたちがキャンプし、なぜだか日本人は少なくて、10%くらい。（それでも、1969年の日本人旅人が0.1%以下だったことを想うと、安心？）そして11月20日新月に最終日を迎える、それから（クリーンキャンプ）が始まり、11月27日現在で50人が残り、後かたづけ真っ最中。

ギャザリングが始まるとからは総社や岡山の町に突如外人が溢れ、コンビニ、路上のヒッチハイク風景などで沢山の市民が刺激され、日帰りの（見物客）が急増し、この二か月近いキャンプに参加したひとは総勢1000人に達している。このあまりの変化風景に市役所や警察に通報が殺到し、警察も市役所もなんか会場に足を運んできた。

1500年も昔、この地は（西の叡山）と呼ばれ、2000人以上の山岳修行者が棲み、山の隅々まで庵を組み暮らしていた。2025年、この決定的な時代のうねり力の中、世界中から集まって来た最先端縄文人たちが、1500年前を想起するかのように山の隅々までテントを張り、火を起こし、時空を超えて、あの世とこの世がメルトUPされてしまった！！

キセキは日常化され、あの世からのイノチに突き動かされるかのように、新月・満月・新月には、レインボーセレモニーに加え、天岩戸開き～うちゅうのダイジョ～ぶ音頭～こきりこ節～あわうたなど日本の靈性が展開された。

8月末ぎりぎりまで候補地探しが続行したけど、ボクのなかでは（未来力）に打ち負かされて（月の村開催）は100%確信に満ちていた。そんなボクの確信を応援するかのように、本番迫る中、ボクらの神社（山王宮）の祈り殿があ！っと倒壊し山のような材木が産まれ、9本の松も枯れ、沢山の薪も奉納された。

本番に入って、その祈り殿の材木で月の村に神社を建立する人も現れ、最終日の11月20日新月にその神社を皆で燃やし、前代未聞の巨大な炎を囲んでの縄文セッションの



渦が巻き起こった。

レインボーギャザリングワールドを一言で表現するなら、『キレイな女神たちとスーパーマンな男神たちが世界中から結集した縄文最先端風景』

設営するにも裸足と素手でやり、どこから集めてきたのか！驚くほどの石や岩を集め「百年はもつ！！」宣言と共に観たことも無い巨大なピザ窯をつくって、徹夜でPIZZAを焼き続け、おしげもなくみんなに配っていたイタリア人ダビデ！！

ここがアブナイ！！と思っていたら、スグに階段や橋ができる、ボクが想起していた全ての聖域にテントが張られ、神社（ラーメンテンブル）も産まれ、やってくる人にラーメンを作って奉納していた。お金を全く使わないで全てが（奉納）で循環し、一日二回、火を囲んだ（フードサークル）で、みんなマイ箸マイコップを持って同じ釜で食事し、食後には、問題点やアイデアを出し合い、最後に歌と踊りで（マジックハット）が回ってお金などが奉納され、その集まったお金で（フードミッション）の人たちが町へ買い出しにでかけるのだ。巨大なキッチンには常にだれかが食事を作っていて、そんな役割りのすべてがひとりでに集まって来るフシギ世界。

今までの例では、ギャザリングが終わったら全て片付け元に戻すのが決まりだったけど、ボクの全細胞的願いで、設営した全てのものをそのまま残すことになった

それを、2年後の秋、
2027年10月9日から始まる64日間の祭り（たましいのかくじけん）第五弾へ連鎖

♪ オタノシミ

PS. このギャザリングに正面から向かい始めて、体重が7キロも削ぎ落されてしまい、『アイアム ハッピー♪』（第四作目????）



結婚式を挙げた中央カップルはレインボーの核的存在で、両脇カップルは（いのちの祭り2024）の核的存在♪

←メキシコに棲む日本人ポータル&イエバ（リトニア人）の結婚式風景。この日は彼女の30歳の誕生日。太一やの庭で。